

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和2年10月15日

東員町議会

総務建設常任委員会委員長 伊藤治雄 様

東員町議会 大崎昭一



研 修 報 告 書

研修期間	令和2年10月13日(火) ～ 10月13日(火)【1日間】
研修(視察)先	桑名市
目的(テーマ等)	桑名駅周辺整備及び公共交通についての視察
資料添付の有無	有・ ☒ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。



様式 1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 大崎昭一 〕

研修概要、内容、所感

当常任委員会の今年度の活動計画の一つである「本町の公共交通の在り方について」の検討促進を図るために、桑名市の活動経験を学ぶことを目的として、委員会全員が参加して桑名市へ視察に赴いた。

本町公共交通の在り方を検討する目的について私は、少子高齢化時代を迎えている今日の状況下で、全町民の生活利便性を向上させるために、いかにして現行のオレンジバス運行を多角的、重層的により便利にするか、オレンジバスを補強する交通手段をいかにして構築するか、という問題意識を持ち研修に臨んだ。

1. 日頃の移動手段をもっぱら自家用車に頼っている私たち自身が、まずは本町のオレンジバスに乗車しようと会議で意思確認した。

桑名市へ向かう往路は、庁舎前バス停でオレンジバスに乗車し、穴太駅前停留所で下車し、北勢線に乗り換え、終点西桑名駅に到着した。穴太駅前バス停で感じたことは、バス停から駅舎へ向かうのに、車道を横切らなければならない。これは危険であり、安全安心とはいえない。乗降を駅改札口前に変更すれば安心安全である。

役場前から穴太までに乗車した一般客は2名だった。

帰路は北勢線東員駅で下車し徒歩で庁舎着。

2. 出迎えてくださった桑名市職員様の案内で、新たに生まれ変わった桑名駅自由通路を視察した。自由通路を行き交う人は鉄道利用者だけでなく、生活者らしい出で立ちでの往来もあるように見受けられた。桑名駅の東側地域と西側地域がJR線路、近鉄線路を跨いで24時間入場料金を支払うことなく往来できる“市道”になったことは、長年、桑名駅を利用して通勤した経験のある私は感慨無量である。

さらに、14万都市桑名市の駅前開発整備は、東側、西側共に、「桑名駅周辺複合施設整備事業」として計画進行途上であり、遠くない将来、見違える桑名駅周辺になるであろうと胸躍る思いである。

自由通路に手荷物をおける台やベンチがあるといいな、とも思った。桑名駅の都市整備事業は、独り桑名市に留まることなく、本町と隣接し、人口移動における桑名地域の玄関口として本町の発展にも貢献するだろうと思えた。

3. 午後は、桑名市役所会議室へ移動し、MaaS推進室課長から、①桑名市の交通の概要 ②公共交通の課題 ③自動運転バスの実証実験 ④MaaSの取組み状況の説明をいただいた。

今回の研修で印象に残ったこと、本町に生かすことは一。

少子高齢化時代の中で、利用者から求められる多様なニーズに応じ、諸課題解決のために、今年４月の組織再編で、市長公室内に M a a s 推進室を設置して、市民だれもが、移動しやすい持続可能な交通体系の構築に、具体的に努力をしていることに、桑名市のやる気を感じた。

桑名市の特性として、多度、長島等の人口過少地域、大山田等の住宅地域などの人口分布や町の構造、地形などを考慮して、より良い交通体系づくりを模索していること。

高齢市民の自宅から最寄りのバス停までの移動は苦難の距離であり、この苦難軽減のために、長島地域では、デマンドタクシーの実証実験を、大山田地域では、自動バス実証実験に取り組んでいること。

MaaS の取組みでは、交通を「人の移動手段」という範囲から、「サービスの移動」を組み合わせ、市民生活のより豊かな暮らしのために、まち全体の活性化を創造していく方向性を求めている行政方針に、強い関心を持った。

桑名市の「まちを創造する」取組みの一端を学び、本町でも、より豊かなまちづくりに本腰を入れて取り組む必要があると思う視察研修であった。

以上